



航空高専衛星打ち上げのニュースを読んだ方のネット上の反応

都立産業技術高専

ものづくり工学科教授 吉田喜一

● いい話だね〜：町工場のおやじに一杯おごりたい気分だ。学生諸君、がんばれよ ● 政界や財界を牛耳る大人達が悪夢を振りまく中、若者に希望を持たせてくれる素晴らしいニュースですね。

● 正直、社会に出たら夢も希望もなくなった。学生時代にこんな素晴らしい夢を実現するチャンスが得られるなんて、高専の学生が羨ましい。陰ながら応援しています！

● 「若い力」って言うけど、本当だよな。会社に入ると、老人が大きな顔をして旧慣で若者を縛り付ける。政治も〇〇をすぎた「若手」が、やっとなりたい放題できると「やる気」を出して、日本を無茶苦茶にする。日本を支える若い力の育成に尽力されている教育・研究関係者に感謝したい。無力のサラリーマンですが、応援してますから。

● 断られるのを覚悟で地元荒川区の中小企業に協力を求めたところ、「なんでもっと早く言わないんだ」と採算度外視で引き受けてくれたという。すげえ感動した！これにかかわる人たちが夢や希望にあふれていてすばらしい。世の中こんな人たちがあふれていたらと思う。

● 町工場の名前を出して宣伝してやってくれ

● この中小企業の心意気に感動した！ ● 夢のある話ですね。協力してくれた企業の心意気も素晴らしい！成功するよう願っています。良いニュースで、心が温かくなりました。

● 断られるのを覚悟で地元荒川区の中小企業に協力を求めたところ、「なんでもっと早く言わないんだ」と採算度外視で引き受けてくれたという。*泣きました *協力した地元荒川区の中小企業にもバンザイ！！ ● そうだ！そうだ！協力した地元企業の名前をだしてやれ！！

● 高専出身の私としても、嬉しいニュースです！！技術力の高専。素晴らしいですね。高専の存在が再び日本の中で大きいものになると良いですね。大企業さん、高専生は普通の大学生よりも実験や研究時間をたっぷり割いて勉強をきています。短大の扱いではなく、修士と同程度の扱いにしてはいいかがでしょうか？優秀な人が沢山いますよ。

● 荒川区の町工場から東京は変わる？頼む！変わってくれ！かつての夢の都へ・・・

● 闇雲に金券ばらまくよりこんなとこに少しでもいいから金だせよ

● 夢を持ち続けることは誰にでもできると思います。このニュースを期に、社会に出たらとか、そういうことは言わずに皆さんも夢を持って行こうとは思いませんか？確かにいろいろなことでは自由度は高かったと思いますが、高専生の方々は実際に行動を起こしたことに素晴らしいと思います。実際に何か行動を起こして、頑張ろうじゃないですか。



東京〜九州 消える「寝台特急」乗車記①

本紙が発行されてからおよそ半月後、3月13日の出発を最後に、東京〜九州を走り続けてきた「寝台(ブル)特急(トレ)列車(イン)」が完全に姿を消します。

かつて、東京〜九州の移動手段は、在来線をひたすら夜を徹して走り続ける寝台列車こそが、主要な役割を担ってきました。特に、昭和33年に、青い塗装の新型客車が「あさかぜ(東京〜博多)」として走り始めてからは、寝台列車はその外観から「ブルートレイン」という愛称で呼ばれ、親しまれてきました。

しかし、その後、新幹線が博多まで全通し、他方で航空機が圧倒的な速さを武器にシェアを伸ばしていくようになると、「ブルートレイン」は退潮期に入っていききました。現在では、「富士(東京〜大分)」と、「はやぶさ(東京〜熊本)」の2本(一部区間は併結)が走るに過ぎず、これも次のダイヤ改正を機に、冒頭の通りその歴史に幕を閉じます。

私は一昨年の秋頃に、知人から「近々、九州方面のブルートレインが全廃されるらしい」という噂を聞いていたので、両列車には昨年5月と9月に、お別れ乗車をしてきました。

東京からの下り列車は、夕方6時3分に発車すると、帰宅通勤客で混み合う駅を横目に、東海道線を西へ向かいます。私が生まれた頃に作られた、少し古ぼけた車内には、ゆっくりに流れる時間が流れます。熱海を出ると、長い長い丹那トンネル。静岡を発車し、9時過ぎには車掌が巡回し車内消灯。「タタンタタン」というジョイント音が心地よく、お酒の効果と相まって、翌朝広島到着の放送までぐっすり夢の中です。

広島を発車すると、やがて左側に安芸の宮島が見えてきます。岩国からは、早朝の瀬戸内海が車窓いっぱいに広がります。夜明けのこの景色の印象的なこと！徳山発車後、車内販売のおばさんが弁当満載のワゴンを押してきます。中でも「御料理弁当」と書かれた弁当は「幻の柳井幕の内」として珍重される逸品。丁寧な作られた温もりのある味わいです。右に左に、列車はカーブを繰り返しながらまだまだ西へ。8時30分、ようやく本州西端の下関に到着。ここで、関門海底トンネルを通過し、電化方式の異なる九州へ入るために、専用の電気機関車に交換します。ホーム先端は、この作業風景を収めようと、カメラを持った乗客で大にぎわいです。

関門トンネルをくぐり抜けると、ついに九州の地です。最初の門司駅で、ここまで一緒に走ってきた「富士」と「はやぶさ」を切り離し、これから先は別々の方向へ向かいます。「富士」は日豊本線を走り、温泉で名高い別府を過ぎると、周防灘の穏やかな海を見ながら、終点大分に到着します。一方、「はやぶさ」は鹿児島本線を走り、大牟田を過ぎると右手に雲仙を望み、西南の役で知られる田原坂を通過し、九州新幹線工事たけなわの終点熊本に到着します。次号では上り列車の思い出をお話しします。

【消費生活アドバイザー】
佐藤 祐一郎 ◆
◆メガネのサトウ ◆
南千住5丁目43の13【コッ通り】
TEL 03(3806)4930
★営業時間のご案内★
平日・土曜：AM 10時〜PM 7時30分
日曜・祝日：AM 11時〜PM 6時30分
◎3月の毎週水曜日は、休業日でございます。
◎17日(火)は、午後3時で終了予定です。

